

1. 略歴

1996年4月	同志社大学工学部知識工学科入学
2000年3月	同 卒業
2000年4月	同志社大学大学院工学研究科知識工学専攻博士前期課程入学
2002年3月	同 修了
2002年4月	総合研究大学院大学複合科学研究科情報学専攻博士後期課程入学
2005年3月	同 修了
2005年3月	博士（情報学）（総合研究大学院大学）
2005年4月	国立情報学研究所 助手（～2007年3月）
2006年4月	総合研究大学院大学 助手（併任）（～2007年3月）
2007年4月	国立情報学研究所 助教（～2009年10月）
2007年4月	総合研究大学院大学 助教（併任）（～2010年3月）
2009年11月	国立情報学研究所 准教授（～2019年8月）
2010年4月	総合研究大学院大学 准教授（併任）（～2019年8月）
2019年9月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

人文情報学、ウェブ情報学、学術情報流通

b 研究課題

- (1) 人文学における知識表現ならびにデータ構造化の検討
- (2) 史資料を対象とした情報流通システムの設計
- (3) 日本のインターネットにおける技術的・社会的展開

c 概要と自己評価

2019年度はインターネットと人文学の関わりを主題として研究教育と社会貢献活動を行った。(1)では、史資料に関する情報をインターネット上に公開する際に、利用者が内容を容易に理解するためのメタデータの要件を整理し、文化庁ならびに東京大学史料編纂所が保有する情報に適用した。また、各専門分野の持つ詳細な情報を対象として、概念や人物の時系列的変遷を明示的に記述する手法の検討を行った。(2)については、各種データを社会へと効果的に流通させるための情報システムの設計を行い、文化庁メディア芸術データベース版に反映させた。また、複数の機関によって提供された異なるデータベース間での情報の連携手法について提案を行った。(3)については、日本のインターネットの展開を把握するための基礎資料の整備を進めるとともに、分析の一例としてソーシャルメディアの経緯に関する論考を執筆した。この他にも、人文情報学分野の普及を目的とした講演やコミュニティ形成を行っている。

d 主要業績

(1) 著書

共著、下田正弘・永崎研宣編、大向一輝他、『デジタル学術空間の作り方：仏教学から提起する次世代人文学のモデル』、文学通信、2019.11

(2) 論文

大向一輝、「SNSの進展」、『電子情報通信学会通信ソサイエティマガジン』、13巻、4号、2020.3

大向一輝、「人文情報学とは何か」、『文化交流研究』、33号、2020.3

小林和央・風間一洋・吉田光男・大向一輝・佐藤翔・桂井麻里衣、「学術情報検索における検索語を用いた論文の特性分析」、『第12回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム（DEIM2020）論文集』、2020.3

(3) 学会発表

国内、大向一輝、「システム構成の観点から」、デジタルアーカイブ学会第7回定例研究会：ジャパンサーチの課題と展望、東京大学、2019.9.24

(4) 啓蒙

大向一輝、『『ジャパンサーチのシステム・アーキテクチャ』を読む』、『ACADEMIC RESOURCE GUIDE』、764号、2019.9

(5) **研究テーマ**

情報・システム研究機構、未来投資型プロジェクト、大向一輝、研究代表者、「分野融合型研究のための研究データ
ディスカバリープラットフォームに関する研究」、2018～
文部科学省科学研究費補助金、基盤研究（B）、大向一輝、分担者（代表者は東大外）、「利用者の研究練度に応じた
多様な観点を統合する学術情報システム」、2019～

3. 主な社会活動

(1) **学会**

国内、人工知能学会セマンティックウェブとオントロジー研究会、幹事、2012.4～
国内、ARG Web インテリジェンスとインタラクション研究会、幹事、2012.12～
国内、人工知能学会ウェブサイエンス研究会、委員、2015.4～
国内、情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会、運営委員、2016.4～
国際、Journal of Japanese Association of Digital Humanities、Editor、2018.9～

(2) **行政**

国内、内閣官房 IT 総合戦略本部官民データ活用推進基本計画実行委員会オープンデータワーキンググループ、構成
員、2016.9～

(3) **学外組織(学協会、省庁を除く)委員・役員**

国内、一般社団法人オープン&ビッグデータ活用・地方創生推進機構利活用・普及委員会、委員、2014.10～